

# 1. 蒲原中学校教育方針

## 1 教育目標

### (1) 学校の教育目標

人間としての尊厳を確立し、世界にはばたく人となる国民の育成を目指し、生徒や地域の実態を踏まえ、次のように本校の教育目標を設定する。

- 1 健康
- 2 明るくたのしく
- 3 少しずつ賢くなる

### (2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

上記の教育目標達成のために次のように基本方針を設定する。

- 1 自他の生命と人格を尊重する精神を養い、思いやりの心や偏見、差別をしない心、自分自身を大切にすることを育てるために、人権教育を一層推進する。
- 2 確かな学力を身に付けた生徒を育成するために、分かる授業を通して学習意欲を向上させ、基礎、基本を定着させるとともに、言語活動を充実させ活用力の向上を図る。
- 3 自主、自律の精神や奉仕の精神、法やきまりを遵守する精神を養い、豊かな人間性をはぐくむために、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通して心の教育を充実させる。
- 4 生涯にわたり健康で安全な生活を送るために、体力を向上させるとともに、食育の推進及び健康・安全指導の充実を図り、好ましい生活習慣を確立させる。
- 5 生徒の主体的で的確な判断力や行動力を高め、生徒相互の好ましい人間関係を築くために、教師と生徒の信頼関係及び確かな生徒理解に基づく生徒指導を充実させる。
- 6 生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、体験的な学習を進めるとともに、系統的、計画的な進路指導の充実を図る。
- 7 生徒一人一人の発達段階や実態に応じた指導を充実させるために、特別支援教育校内委員会を中心として、スクールカウンセラーや医療、福祉等の関係機関と連携した、きめ細かな支援計画に基づく教育を推進する。
- 8 小学校との円滑な接続を図るために、地域の小学校との教師間及び児童・生徒間の交流を深め、学習指導を中心とした小中の連携の取り組みを一層進める。
- 9 開かれた学校づくり協議会やPTAと連携して学校情報の発信に努め、学校評価に基づく経営改善をすすめ、透明性の高い学校経営を行う。
- 10 学校の教育目標を達成させるために、都並びに区の教育施策を効果的に活用し、学校の教育活動全体の充実を図る。

## 2 指導の重点

### (1) 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

#### ア 各教科

- 1 生徒、保護者が年間指導計画、評価規準、評価方法、学習の仕方などを示した「学習のめやす」を活用することができるように「学習相談会」を行い、主体的で意欲的な学習態度を育成する。
- 2 各教科の指導においては、分かる授業を徹底し、個別指導や繰り返し指導を計画的に行い、学習意欲を高め基礎的、基本的な知識、技能を確実に定着させる。
- 3 授業において発表やレポート作成、話し合いなどを意図的、計画的に取り入れるとともに、読書活動を推進して言語活動を充実させ、知識、技能の活用力や表現力を高める。
- 4 学習内容の確実な定着を図るために、「通知表」のほかに学習状況をきめ細かく生徒・保護者に伝える「学習の記録」を作成する。
- 5 「家庭学習ノート」の指導を通じて、家庭と連携をとりながら学習習慣の定着を図る。

- 6 図書室活用年間計画に基づき、図書室を活用した調べ学習を推進する。
- 7 都並びに区の学力調査の結果を踏まえ、教師相互の授業診断を校内研修に位置付けるなど、教師の授業力向上を図る。
- 8 足立区副担任講師とのT T授業を通して、個に応じた指導の充実を一層図る。
- 9 ICT機器を活用した授業を推進し、指導方法や教材の工夫をすることで、生徒の学習への興味、関心を高める。

○国語

- 1 基礎・基本を身に付けることに重点を置き、漢字の読み書き、作文、正しい日本語を使用する力の習得に日常的に取り組む。
- 2 意見作文や意見発表等の言語活動を通して、生きる力としての書く能力及び説得力のある話し方の能力を育成する。

○社会

- 1 単元ごとに小テスト等を実施し、基礎・基本の定着を図る。
- 2 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習を重視する。
- 3 学習意欲や関心を高めるために映像教材などを準備し、グループ学習・発表などで表現力を高める指導を行う。
- 4 新聞スクラップなどの課題を与え、社会への関心や家庭学習の習慣をもたせる。

○数学

- 1 小テスト、計算コンテストや補充教室等を行うことにより、数学における基礎・基本である計算力を定着させるとともに、個に応じた指導を実施する。
- 2 生徒の様々な考え方を取り上げながら授業を展開し、論理的な思考力・表現力の育成を図る。
- 3 問題集やプリントなどの課題を与え、家庭学習の習慣を身に付けさせる。

○理科

- 1 日常生活と関連付けて、自然の事物・現象に対する科学的な見方や考え方を育成する。
- 2 観察・実験を行い、自然の不思議さ、巧みさを感じさせ、自然を探究する能力や態度を育成する。また、それぞれのレポートの作成発表をコンピュータなどで行うことにより情報処理能力や情報活用能力を育てる。
- 3 自ら課題を見つけて解決していく能力を育成する。

○音楽

- 1 発声や楽譜などの基本的なことがらにふれ、繰り返し学習する。ワークシートを活用して主体的な活動を進める。
- 2 日本独自の音楽文化にふれさせ、世代を超えて伝統文化を受け継いでいこうとする態度を育てる。
- 3 様々な音楽にふれる機会を増やし、音楽に対する興味・関心を育てる。

○美術

- 1 表現の基礎的な能力を身に付けるためにきめ細やかに指導し、作業進度に応じた個別指導を行う。
- 2 創意工夫を促す指導を行い、完成させる喜びを与える。
- 3 美術館や文化遺産を通して、美術文化に対する興味・関心を育てる。

○保健体育

- 1 体力・運動能力、運動習慣等の調査結果を踏まえ、持久力向上に重点を置いた指導を通して基礎体力の向上を図る。
- 2 集団行動の充実に力を入れながら、他者とのコミュニケーション能力を高める指導の工夫を図る。
- 3 課題発見能力、課題解決能力を高める指導の工夫を図る。

- 4 生命尊重（心の健康）について、保健の授業だけでなく、家庭でも話し合えるよう保健の指導を工夫し、各個人の生きる力を高める。

○技術・家庭

- 1 ものづくりや衣食住などで生活に必要な実践的・体験的な学習を通して、基礎的・基本的な知識・技術を習得させる。
- 2 作業進度などに配慮し、個に応じた指導の工夫をしながら教科と社会や環境との関わりについて理解を深め、学習内容を適切に評価し、活用する能力と態度を育てる。

○英語

- 1 基礎・基本の定着を図るために、教科書の音読、聞き取り、書き取りの活動を徹底して行う。
- 2 スピーチやスキット発表などの活動を通して、自己表現の能力を育成する。
- 3 外国人講師との授業や会話テスト、音読テスト、小テスト、スペリングコンテストなどの取り組みを通して、達成感を味わわせることで学ぶ意欲を引き出す。
- 4 単語・文の書き取りや音読などの課題を与え、家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- 5 ペアワーク・グループ活動を通して言語活動を充実させ、コミュニケーション能力の基礎を育成する。

イ 道徳

- 道徳教育推進教師を中心に、全体計画及び年間指導計画に基づき、適正な実施管理を行うことで、道徳教育を充実させる。
- 職場体験やボランティア活動、自然体験活動等の多様な体験活動と道徳の時間との関連を図りながら、道徳的価値観や道徳的实践力を育成する。
- 「心のノート」を活用するとともに道徳教材を工夫することにより、道徳の時間の充実を図る。
- 年3回の道徳授業地区公開講座を実施し、学校の取り組みを発信するとともに、家庭や地域と一体となった道徳教育を推進する。

ウ 総合的な学習の時間

- 総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画・評価計画に基づいた授業を展開する。
- 地域環境を活用した体験的・横断的・課題解決的な学習活動を取り入れ、生きる力の育成を図る。
- さまざまな体験を伴う活動を通じて生徒に社会性やコミュニケーション能力を身に付けさせる。

エ 特別活動

- あいさつ運動やボランティア活動等を通して、生徒の主体的な実践活動を促進する。
- 学校行事においては、集団の一員としての自覚を深め、集団の規律や秩序を守ること及び連帯感を育成する指導を充実させる。
- 学級活動を充実させ、学校生活への適応と意欲的な生活態度の育成を図る。
- 安全指導・避難訓練・セーフティ教室の充実を図り、自他の生命を守るための的確な判断・行動がとれる生徒を育成する。

(2) 特色ある教育活動

ア 学校としての特色ある取組

- 人権学習週間を年3回設け、生徒の人権に関する知識・技能や価値観を高める。
- 年3回の学習コンテスト（漢字、計算、英単語）を全校体制で実施し、基礎的・基本的な力を身に付けさせ、学習に対する意欲を喚起する。
- 家庭学習ノートを日々点検することにより家庭学習の定着を促す。
- 読書を習慣づけるために朝読書を実施するとともに、学年にあわせた学級文庫を

設置する。

- 確かな学力を育成するために、生徒個々に対し、目標設定、学習計画、実践、自己評価を行わせていくとともに、相談活動を通して自己の課題を確認していく。
- 食に関する全体計画に基づいて食育指導を行い、健全な生活習慣を確立し、生徒の心身の成長・発達を促す。
- SGE・CSS・Q-U等の活用を一層図り、生徒、学級の実態を正しく把握し、ハートフルタイムなどを通して質の高い学級・学年集団を育てる。
- 勤労体験学習の一環として、全校美化活動・奉仕活動を実施する。
- 部活動全員参加の体制をとることで、生徒の社会性と協調性を養うとともに、生徒一人一人が活躍できる場と機会を設定する。

#### イ 区の施策にかかわる取組

- 長期休業中に、学校図書室活用を含めた補充教室や質問教室、中学生補習講座などの多様な学習機会を設定する。
- 小学校との連携を強めるため、体験入学や小学校への出前授業、部活動交流、定期的な授業参観、交流会を持つ。
- 校内書初め展、百人一首、音楽鑑賞教室等を通して日本の伝統文化の継承や、外国文化への理解を深める。
- 土曜授業では、授業公開を原則とし、セーフティ教室、音楽鑑賞教室、道徳授業地区公開講座等も行い、保護者・地域の本校への理解を深める機会とする。
- 学校図書館支援員のもと図書室を整備し、言語能力や表現力の育成を図り、調べ学習や放課後の学習活動の充実のため、図書室を有効に活用する。
- 体力・運動能力、運動習慣等の調査結果を踏まえ、持久力向上に重点を置いた指導を通して基礎体力の向上を図るとともに、食育を推進し健康的な生活を送れるよう指導する。

#### (3) 生活指導

- 生活指導部会を定期的に行い、日常の生徒の生活状況を把握し、生徒理解を深めながら課題解決にあたり、全教育活動を通して、生徒の自己肯定感を育てる。
- 特別支援教育校内委員会を定期的に行い、特別支援教育コーディネーターを中心にスクールカウンセラーや関係機関との連携を進めながら、個に応じた支援を組織的・計画的に実施する。
- 関係機関との連携のもと、薬物乱用防止教室やセーフティ教室を実施し、生徒の規範意識や安全意識の向上を図る。また、学校の取り組みを公開することで、家庭や地域の学校に対する理解を深める。
- いじめや不登校の未然防止、生活上の課題解決を図るために、生徒及び保護者へのアンケートを定期的実施し、生徒の実態を把握し、迅速な対応を行う。
- 避難訓練や安全指導を充実することで、生徒の危機回避能力や危険予測能力を高め、安全な生活を送ろうとする態度を身に付けさせる。
- 生徒の学校生活での不安や悩みを早期に解決させるため、日頃から情報収集に努めるとともに、教育相談活動を全校体制で行う。

#### (4) 進路指導

- 夢デザインシートを活用しながら系統的・計画的な進路指導を実施し、自己の能力や適性の理解にたつて、社会における役割と将来にわたる生き方を考え、自己に適した進路を選択できる能力を身に付ける。
- 進路指導に関する情報や資料を整備し、その活用を図りながら家庭との連携を密にすることで、主体的な進路を選択できる能力を養う。
- 職場体験学習やボランティア活動等の体験活動を通して、勤労の尊さや社会奉仕の精神を養う。